令和5年度第1回

三重県職業能力開発審議会

議　　事　　録

（概　要）

令和5年 11月6日（月）

1 開催日時

令和5年11 月6日（月） 10時00分から11 時 30分まで

2 開催方法

オンライン（事務局は三重県庁8階会議室に集合して参加席）

3 出席者

【学識経験者】

松本 金矢 会長 三重大学教育学部 教授

兼松 秀行 委員 鈴鹿工業高等専門学校 特命教授

中野 和代 委員 一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会 代表理事

杉浦 礼子 委員 名古屋学院大学商学部 教授

【事業主代表】

西尾 篤 委員 株式会社松阪鉄工所 取締役経営管理部長

世古 直美 委員 三重県中小企業レディース中央会 副会長

玉木 信介 委員 三重県鐵構工業協同組合 理事長

【労働者代表】

伊藤 由幸 委員 日本労働組合総連合会三重県連合会 副事務局長

佐橋 洋一 委員 JAM東海 オルガナイザー

奥川 英雅 委員 三重県建設労働組合 執行委員長

【特別委員】

石川 裕樹 特別委員 三重労働局職業安定部 部長

吉本 卓弘 特別委員 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
三重支部三重職業能力開発促進センター 所長

※欠席委員 なし

【事務局】

県関係部局職員 9名

4 議題

【議題1】三重県の職業能力開発に係る事業の実施状況及び今後の予定について

【議題2】三重県立津高等技術学校の状況等について

5　議事録

【議題1】三重県の職業能力開発に係る事業の実施状況及び今後の予定について

（事務局　三重県雇用経済部雇用対策課　から資料1に基づいて説明）

（非正規労働者への支援について）

【奥川委員】

・非正規雇用の安定就労に向けた具体的な支援について教えてほしい。

【事務局（雇用対策課）】

・正規雇用等安定就労を目指す方で多いのは、「就職氷河期世代」の方。そういった方には県の「おしごと広場みえ」内の窓口「マイチャレ三重」で相談対応を行い、長期無業者の方にも「地域若者サポートステーション」で就業体験や相談対応など、様々な支援を実施している。

・厚生労働省の制度では、非正規から正規になったときの助成金がある。企業、当事者に対してセミナーなどで周知を行っている。

・「働きたいけど働くことができない」という方に、できるだけ働く先を見つけるための支援を今行っているところ。

（産業界の維持のための人材育成・確保について）

【杉浦委員】

・ MaaS、IoT、ロボットなど先進的なところにも目を向けているのは非常に良いが、例えば物流業界のドライバー不足の問題を解決するためには、MaaS だけでなく、産業を維持するための人材育成・確保も両輪で取り組む必要があるのでは。

【事務局（雇用対策課）】

・ 人材育成・確保についても重要と考えている。業界ごとの課題については、各分野を所管する部局が対応しているが、参考資料への記載は行っていきたい。

（職業訓練における定員の考え方及び外国人への配慮について）

【西尾委員】

・ 1点目。職業訓練に関する取組実績については“充足率を満たしていない”といったネガティブな評価となっているが、ポジティブに評価していけるようになればいい。定員の設定方法を聞きたい。

・ 2点目。職業訓練における外国籍の方への対応について。例えば、当社には、日本語は話せるし平仮名は読めるが、漢字が読めないという人がいて、「講座のテキストに使われている漢字に平仮名をふってほしい」と要望される。今後、外国籍の方の就労を支援して

いくにあたって、テキストの工夫や支援を検討してほしい。

【事務局（雇用対策課）】

・ 1点目については、前年度の人数などをもとに労働局と協議して決めている。定員の充足率が低いことは課題ではあるが、離職者向けの訓練が定員割れという現象は、景気が上向いているということでもある。ただ、就きたい職種と訓練内容のマッチングは必要。委託訓練先と一緒にできるだけ早く宣伝をしていきたい。

【事務局（津高等技術学校）】

・ 2点目については、本校では、テキスト・試験ともに漢字にひらがなのルビをふり、ひらがなでも難しい方には音読している。南米の方中心にはなってくるが、通訳もおり、授業内外にかかわらず対応している。

（障がい者に対する就労支援について）

【中野委員】

・１点目。特別支援学校で清掃技能検定を入れるなど、一つの基準を設けて職業訓練をすることで、生徒たちが自信を持って社会に出て行けるような取組は年々充実をしてきた。ただ、障がい者の職種は、まだまだ限られている。卒業生の就職率は非常に高いが、どういった職業に就いたらいいのか本人も家族もよくわからないままに就労だけが進んでいるという状況もある。選択の幅を広げつつ、適性をみながら段階を踏んで社会に出ていける体制づくりを考えているか。

・２点目。ステップアップカフェについて。障がい者が前面に出て、カフェで活動している姿を利用者の方に見ていただくという、非常に斬新な取組が始まって 10 年経過した。事業者によるレストランの経営ノウハウも、本人のスキルアップと併せて県による支援が必要だと考えるが、どうか。

【事務局（障がい者雇用・就労促進課）】

・ １点目。特別支援学校の取組や課題については、教育委員会から聞いている。適性については、産・福・学（産業界・福祉分野・学校）の間で、普段から課題などを共有できる「顔のみえる関係づくり」が重要と考え、定期的な交流会を行っている。参加企業からは「初めて障害者を雇用するのはどうしたらいいか分かった」とか、学校の方からは「普段、企業の方がどういう視点で採用しているのかがよく分かった」といった声があった。個別のニーズもあると思うが、まずはこの関係づくりを続けていきたい。

・ 2点目。三重県の障害者雇用率は、ステップアップカフェができた当時は全国最下位だったが、現在は 16位まで上昇している。このカフェは、「障がい者が働いている姿を見てもらう場」として位置付けていたが、新型コロナの影響もあり、来客者数が減ってきた。一方、県内で他にも障がい者が働くカフェが増えてきた。検討段階だが、今後ネットワークを構築し、県がステップアップカフェで培ったノウハウを共有しながら、障がい者雇用の理解促進につなげていきたい。

（STEAM教育について）

【松本委員（会長）】

・海外では STEAM 教育が主流になってきているが、日本では進んでいない。経済産業省も、経済状況をふまえ、ものづくりや日本の技術産業に関する教育を強く推しているところ。資料1では、STEAM 教育を推進しているといったことが書かれているが、具体的な導入状況を知りたい。子どもたちには、自分たちが日本の産業を支える人材ということを自覚してもらいたい。なお、兵庫県では、普通科の高校に STEAM 科を置くというような話も聞いている。

【事務局（高校教育課）】

・今年度は、県立学校 17 校が、国の「未来の教室」実証事業の指定を受け、実業高校（商業高校、工業高校、農業高校）の課題研究において STEAM 教育が導入されている状況。これから普通科も含めて広げていきたいと考えている。

（DX及びスタートアップと職業能力開発との関係について）

【佐橋委員】

・１点目。資料では「DX人材の育成」「ICTの活用」に言及している部分が多いが、このあたりは企業によってニーズや導入状況の差が大きい。職業能力開発の分野が担う部分を明確にしておくべき。

・２点目。今、愛知県ではスタートアップが非常に盛り上がっている。三重県でも支援事業はたくさんあるようだが、「職業能力開発」としてはどう対応していくのか。

【事務局（雇用対策課）】

・１点目。県の職業能力開発としては、まずは初歩的な内容の訓練をやるべきと考えている。就職に少しでも有利になる技術を身に着けてもらうことが最も重要。県内には、国が求める高度人材の育成に対応できる訓練先が少ない現状もあり、離職者向けの対策から進めたい。

・２点目。当課では所管外であるが、ニーズがあれば、雇用経済部内で行っている取組につないでいく。

【議題2】 三重県立津高等技術学校の状況等について

○ 令和６年度の普通課程の再編にかかる準備状況について

（事務局 三重県津高等技術学校 から資料2に基づいて説明）

○ 施設面の課題と先進地視察について

【事務局（雇用対策課）】

・ 建物については、一番古い棟ができてから 55 年が経過。訓練環境に課題がある。昨年の審議会（※注　津高等技術学校で開催）でも、実際に学校を見ていただいて「古い」というご意見をいただいた。

・ 今回、津高等技術学校の近隣にある三重県工業研究所が、同様に老朽化し、建て替えが検討されている。その際に、同じ敷地に両方を建てることができれば土地の有効活用ができるのではないかということも、一つの検討課題として考えている。また、委員の方にも、審議会の場などでご意見をいただくことになるかと思う。今回は、先日行った先進地視察について報告をしたい。

・ 令和 5 年 10 月 27 日、雇用対策課と津高等技術学校の職員で、福岡高等技術専門学校への視察を行った。比較的新しく建てられた施設であり、津高等技術学校と学科の編成も似ていることから、今後の整備の参考になると考えた。

・ 福岡高等技術専門校では、建て替えにあたり、旧施設の課題に対応した方針を定めた。

◆旧施設の課題

・老朽化により施設の運営に支障が出ている

・管理棟と実習棟が離れた場所にあり、移動に時間がかかっている

・実習棟の天井の高さが確保できないことにより、大きな設備の導入に支障がある

◆新施設の方針

・移動をスムーズにするため、建物を集約し、立体化

・騒音を防止するため、管理棟と実習棟は建物を別に建設

・大きな設備も設置できるように、天井高を確保

・ 建築科の実習棟は、天井の高さが確保されているため、高い建物の建築も中で行うことができる。デジタルエンジニア科や自動車整備科も、天井の高さを確保することで、かなりの長さのクレーン等の設置を行っている。実習棟は 3 階以上にあるため、重量のある機材や資材を運ぶエレベーターが必要となっている。

◆その他、新施設の特徴

・福岡県産の木材が使われている。ただ、年数が経つと変色する。

・教室は比較的広く、ホワイトボードにはプロジェクター等も投影できる。

・総合印刷システム科では、デザインに必要な最新の機器も備えられている。

・本館にも実習棟にもエレベーターが設置され、バリアフリーに対応している。

・体育館は講堂の機能を備えており、地域に開放している。

・訓練生に建物の構造を見てもらうため、配管をあえて見せる設計をしている。

・一般の方が通る場所に、訓練生が製作したものをPRするコーナーを設置している。

・ しかし、建て替えてみて出てきた課題もあったとのこと。これらも踏まえた留意事項は次のとおり。

◆今後、整備を進めるにあたっての留意事項
・国の補助金の関係上、対象となる面積について国との調整に留意する。
・将来学科を見直す可能性もあることから、軽微な変更の場合は、改修工事によらなくても柔軟に対応できるような施設配置や建築構造の想定をする必要がある。
・建物の立体化に伴う資材搬入の手間や立体化による建設費用への影響を検討する。
・学校をPRするための施設や整備について検討する。
・新施設に移る際の訓練・入校の時期についても調整が必要。

今後、留意事項についても検討しながら、整備について考えていきたい。

〇質疑応答・意見交換

（成果品の展示場所の確保について）

【松本委員（会長）】

・ 改革案は非常に魅力を感じる。
・ 視察結果の報告についても、現場の意見は非常に参考になる。特に「施設内に展示物を置くスペースを用意した」というのが面白い。大学では、そのあたりが考慮されていないので、ものづくりを行っていても展示場所が確保できない。職業訓練を行う施設としては、多くの人に成果物を紹介していくことも重要。

（産業技術専攻科の定員について）

【奥川委員】

・ 改革案は、大変いい方向で進んでいると感じた。ただ、1 点気になるのは、産業技術科に 30 名で受け入れて、翌年、産業技術専攻科に進むときには、コース別で 10 名ずつに分かれること。この 10 名は、テストの順位で決まるのか。2年目に入って、自分の希望コースに入れない人が出るのは、気の毒。やりたい人がいたら、定員の枠を広げてもいいのでは。

【事務局（津高等技術学校）】

・ 希望が偏ってしまう場合もあると思う。選考の仕方としては、まず本人の適性を優先するが、それでも偏った場合は、選考試験で上位から取っていくことになる。
・ 定員を 10 名とした一番の理由は、設備と職員の体制。最初に希望するコースを順位付けしてもらうので、選考（第1希望）に漏れた方については、その範囲で決めていただくことになる。ただ、就職が決まる頃には、その就職先に応じて、別コースの授業も受けていただけるような対応も考えていきたい。

（IT 活用について）
【兼松委員】
・ 改革については、前回の審議会から非常に良い方向だと思っていた。
・ 金属分野は縮小傾向で、他分野との融合、特に IT の活用が現場では求められている。私も、例えば3D プリンティングなどをやっている。新課程はそのようなカリキュラムか。
【事務局（津高等技術学校）】
・ 昨年度もそういったご指摘を受けたこともあり、検討している。産業技術専攻科の金属分野（メタルワークコース）は加工が中心だが、CAD による設計、CAM による組み立てなどを行いながら、さらにネットワークを組んで工程をつなげていくといったようなことは、コースに分かれても、共通して積極的にやっていきたい。
【兼松委員】
・ そういうことを前面に打ち出すと、もう少し応募が増えるのでは。

（周知方法について①）
【佐橋委員】
・ 厳しいことを申し上げるが、このパンフレットには卒業後の具体例が無く、「ここに行こう」とは思えない。例えば「主な就職先」の卒業生にインタビューをして、「元は自分もゼロからだったが、今はこんな仕事をしている」といったような内容が載っていないと、産業技術科に応募しようと思う人は少ないのではと感じた。
【事務局（津高等技術学校） 】
・ おっしゃる通り、パンフレットの内容は非常に重要。まだ（新課程なので）修了生はいないが、今後修了生が就職した後に、そういったことを載せていって、PRに努めたい。

（建て替えについて）
【佐橋委員】
・ 建物の老朽化に伴う建て替えの件は、今日この場でなかなかコメントできない。今後も議論を続けていくのであれば、例えば、近隣県の類似施設を見ながら、もう少しイメージがわくような話がないと厳しい。
【事務局（雇用対策課）】
・ 建て替えが決まっているわけではなく、「工業研究所の建て替えに合わせて津高等技術学校を一緒に建てたら土地の有効活用になるのでは、という検討を始めた」段階。まだ工業研究所自体、どういう建物になるのか、実際に津高等技術学校を併設できるようなものかどうかも未定。
・ 今後、審議会の場などでご報告して、その中で、必要なものや、工業研究所と併設することの是非も併せてご意見いただくこともあるかと思う。予算上の制約等もあるが、先ほど（松本）会長がおっしゃったように、展示の場所なども含め、ご意見をうかがいながら考え

ていきたい。建て替えはかなり先なので、情報は順次お示ししていきたい。

（周知方法について②）

【中野委員】

・ 現行の課程では、高校を卒業したばかりでは選びにくいので、1年目は産業技術科として総合的に経験してから、２年目の産業技術専攻科で本当にやりたいことへ進んでいく、という非常に高校生の気持ちを考えた改編だと思う。
・ しかし、現時点で応募者がまだ少ないというのは、改編の意図が学校側に伝わってないのではないかという懸念がある。最初のすばらしい改編のスタートが、定員が満たないということでは、いけない。早急にPRの仕方を見直し、生徒を集めていただけたらなと。

【事務局（津高等技術学校）】

・ PRの仕方は重要。本校も、今年からSNSによる周知を積極的に進めている。改編に合わせて見直した定員の半数が産業技術科の分だが、そこがまだ定数を満たしていない。
・ どういった方法がPRに繋がるのか調査したところ、高校の先生と親戚の方からの勧めが大半ということで、口コミが多い。修了生の勤め先とSNSを積極的に使って、多角的にPRをしていきながら、入校生の確保に努めたい。

（建築関係の関心について）

【玉木委員】

・ 素晴らしい改編計画ではあるが、「産業技術科」という名称では、身につく技術がイメージできないような気がする。建築関係に興味を持つ人が年々減ってきているので、募集には相当な努力が必要。内覧会の際に技術者を呼んでPRするなど。
・ 福岡（視察先）の建築科の入校率はどうか。我々は、確保に非常に苦労している。

【松本委員（会長）】

・ 日本人が、ものづくりに本当に関心がなくなってきている、という現状を感じる。大学の新入生も、ほとんどモノについて知らない・興味がない、というところからスタートする。日本の人材育成全体の計画、あるいは、低学年からのキャリア教育などが必要。

【事務局（雇用対策課）】

・ 福岡県については、建築課は 1 年課程で、定員が 30 名。入校状況は、全体的には苦労されているというような話だったが、令和 4 年度、5 年度に関しては定員を満たしているとのこと。

（以上）